

教えて 学んで 楽しもう

学びのトレジャー

Vol.6

2024年2月23日



ウェルビーイングの向上を目指す家庭科教育

大阪教育大学附属池田中学校

大野 真貴 先生

ウェルビーイングとは、心身と社会的な健康を意味する幸福の概念であり、SDGs（持続可能な開発目標）やOECD（経済開発機構）の「より良い暮らし指標」（Better Life Index）のなかでも重要な項目として挙げています。世界が目指す‘ウェルビーイング’と‘家庭科教育’が目指していることを見比べてみましょう。同じゴールを目指していると思いませんか？家庭科では人の生活の営みに係る多様な「生活事象」を学習対象としており、「よりよい社会の構築にむけて生活をよりよくしようとする実践的な態度を養うこと」を目標として、問題解決的に考え実践力を育成してきました。つまりは「家庭科は世界のウェルビーイング向上に貢献する教科だ」と言えます。では、どのように持続可能な社会や社会全体のウェルビーイングの向上を目指した授業を展開していけばよいでしょう。

内容 (Content)
第一次 (6 時間)
・ バランスの良い食事を考えよう
・ 栄養素の種類や特徴
・ 中学生に必要な栄養
第二次 (6 時間)
・ よりよい食生活をめざして
・ 食品ロスから自身の食生活について考える
・ 食品ロスを出さない伝統的な製法で作られた製品（ゴマ油）（企業連携）
・ 私たちの食と環境（企業連携：プラントベースフード）
第三次 (4 時間)
・ SDGs 給食献立の提案
第四次 (11 時間)
・ 生鮮食品と加工食品の特徴を知ろう
・ 食品の選択と購入、食品の保存と食中毒防止
・ 肉や魚、野菜を使った日常食の調理
・ 日本の伝統的な食文化である和食の調理

本校の授業プログラム

私はまず「未来を担っていく子どもたちに、どのような資質能力をつけさせれば、持続可能な社会が構築されるだろう」と考え、題材を貫く探究テーマを設定し、そのゴールに到達するために探求の問いを作ります。そしてその資質能力を育むための総括的課題を設定します。食生活と自立の題材を例に挙げて説明していきましょう。ここでは「協働的選択によって持続可能な社会が発展し、環境へ影響を与える。」という探究テーマを設定しました。

よりよい食生活とは、個人の食の内容を整え充実させることだけではなく、そこに付随する消費行動を通して人々が協力することで持続可能な社会が構築され、社会全体の課題の解決につながることに気づかせたいと考えたからです。そこで4社の企業と連携し、食品ロスを出さない製法で作られた食品やプラントベースフードから、持続可能な食生活の実現のための多様な選択肢を示す授業を展開しました（写真1、写真2）。学習のまとめは、班でロイロノートのシンキングツールを使用し、探求テーマを見据えた振り返りを繰り返し行います。その際はどのように実生活に活かしていくのかを常に意識させます。



写真1 企業と連携した授業（講義）



写真2 企業と連携した授業（調理実習）



写真3 シンキングツールを使用した振り返り

家庭科は、社会や世界の現状を自分事として捉えさせ、課題解決に向けて多方面から子どもたちが学び合い、解決に向けて実践的に取り組むことのできる教科です。その視点を大切に、授業実践を作っていきます。

開隆堂